

ナガヨシ ヒロユキ Nagayoshi Hiroyuki

永吉 寛行

所属 鶴見大学 文学部 日本文学科

職種 教授

■ 職歴

1. 1987/04～2019/03 神奈川県立高等学校 教諭、総括教諭、教頭及び神奈川県教育委員会指導主事（本務）
2. 2007/10～2016/03 日本大学文理学部 非常勤講師
3. 2019/04～2024/03 宮崎大学教育学研究科 准教授（本務）
4. 2021/04～ 日本大学通信教育部 非常勤講師
4. 2024/04～ 鶴見大学文学部 教授（本務）
5. 2024/09～ 日本大学文理学部 非常勤講師
6. 2025/04～ 神奈川県立藤沢西高等学校 非常勤講師

プロフィール

■ 学歴

1. 1983/04～1987/03 文学士
学位取得年月日 1987/03
取得学位名 文学士
取得学位分野名 日本文学
2. 2003/04～2005/03 修士(学校教育学)
学位取得年月日 2005/03
取得学位名 学校教育学修士
取得学位分野名 教育学

■ 所属学会

1. 1985/04～ 和歌文学会
2. 2006/04～ 中古文学会
3. 2012/04～ 日本国語教育学会
4. 2019/04～ 全国大学国語教育学会
5. 2019/04～ 全国大学書写書道教育学会
6. 2020/10～ 古事記学会

■ 現在の専門分野

国語科教育（キーワード：国語科授業研究） 和歌文学（キーワード：新古今和歌集、小倉百人一首） 近代文学（キーワード：夏目漱石、こころ）

■ 学術雑誌（すべて研究論文）

1. 2004/04 【査読なし】『千載和歌集』巻第五（秋歌下）の特異性—漢詩世界受容を軸とし

て プロブレマティーク・5・pp.108-124

2. 2005/03【査読あり】歌語「いとゆふ」について—『和漢朗詠集』享受をめぐる— 言語表現研究・21・pp. 15-25

3. 2005/10【査読なし】『後拾遺集』における漢籍関係歌の考察 プロブレマティーク・6・pp. 54-76

4. 2006/03【査読なし】『古今集』真名序における紀淑望の執筆態度—九～十世紀における大学寮の状況との関連で— プロブレマティーク・別巻・pp.130-136

5. 2009/12【査読あり】高等学校古典入門期における指導の工夫について—教材『宇治拾遺物語』「児のそら寝」の新たな可能性— 語文・135・pp. 73-86

6. 2010/06【査読あり（共著）】文理学部生の「国語力」に関する意識調査 語文・137・pp. 118-137

7. 2010/06【査読あり（共著）】〈翻〉〈資料紹介〉 近藤芳樹編『類題阿武の杣板 上』 語文・137・pp. 16-43

8. 2010/12【査読あり（共著）】〈翻〉〈資料紹介〉 近藤芳樹編『類題阿武の杣板 下』 語文・138・pp. 56-75

9. 2011/06【査読あり（共著）】高校時代の評論文（小説などの文学作品以外の、論理的文章）の授業について 語文・140・pp. 90-112

10. 2013/04【査読なし】教室で文学作品を扱うということ—高等学校の現場から— 日本語学・407・pp. 28-38

11. 2014/04【査読なし】組織としての授業改善 日本語学・423・pp. 182-188

12. 2019/12【査読あり】高等学校における古典和歌学習について—新科目「言語文化」を視野に入れた試み— 語文・165・pp.1-13

13. 2020/03【査読なし】メタ認知を行う生徒を育てる国語科学習指導法—『徒然草』「仁和寺にある法師」の授業を通して— 宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター研究紀

要・28・pp.63-78

14. 2020/03【査読なし】国語科授業観察シート試案について—模擬授業・実習授業の効果的な指導のために—
15. 2021/03【査読あり】読解力向上を主目標とする国語科の授業作り —PISA2018 問題例分析を生かす授業研究— 九州国語教育学会紀要・10・pp.33-42
16. 2021/06【査読なし】日向神話教材化への基礎調査—小学校第2学年「伝統的な言語文化」の指導イメージから— 宮崎大学大学院教育学研究科教職大学院年報・1・pp.21-24
17. 2021/09【査読なし】中学校国語「比較読み」指導と古典教材開発の連関性—読解力向上の視点から— 月刊国語教育研究・593・pp.38-44
18. 2022/06【査読なし】日向神話教材化の試み —宮崎県小学校向け「海幸山幸伝説」テキスト作成について— 宮崎大学大学院教育学研究科教職大学院年報・2・pp.36-42
19. 2023/04【査読なし】「総合的な学習の時間」で育む資質・能力向上につながる教科学習指導—試論—中学校第1学年国語（書写）・行書指導を通して— 宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター研究紀要・31・pp.27-42
20. 2024/06【査読なし】「海幸山幸伝説」教材化について(1) —小学校使用テキストの開発— 宮崎大学大学院教育学研究科教職大学院年報・4・pp.12-18
21. 2024/06【査読なし】「海幸山幸伝説」教材化について(2) —中学校使用テキストの提供— 宮崎大学大学院教育学研究科教職大学院年報・4・pp.19-27
22. 2024/09【査読なし】国語教育における百人一首の現状と展望 百人一首文化講演会・講演録 pp.1-20
23. 2024/12【査読なし】作者事項学習と教材学習の関連性について —『こころ』導入時の工夫を例にして— 言語教育探究・1・pp.2-6
24. 2025/03【査読なし】文学作品の映像化について—言語活動の目的の適正化を目指して— 鶴見大学国語教育研究会誌・8・pp.1-4

■ 講師・講演

1. 200/10 歌語「いとゆふ」について—『和漢朗詠集』享受をめぐる（言語表現学会）
2. 2009/07 高等学校古典入門期における指導の工夫について—教材『宇治拾遺物語』「見のそら寝」の新たな可能性（日本大学国文学会）
3. 2014/03 文学館・夏目漱石デジタルアーカイブと新しい授業づくり（実践報告）～大正三年の漱石と『こころ』～（神奈川県近代文学館活用研修会）
4. 2017/10 シンポジウム「古典和歌と近現代短歌—研究と実作—」パネリスト（和歌文学会）
5. 2020/08 「正しく読み取り、自分の考えを表現できる児童生徒の育成」（宮崎県小林市西小林中学校区3校合同研修会）
6. 2020/08 「思考力、判断力、表現力等」を育む授業づくり」（宮崎県小林市小林中学校区「学習指導及び生徒指導相談充実事業」教員研修会）
7. 2022/03 和本資料を活用した中学校書写授業の構築について（同志社大学古典教材開発研究センター第2回研究集会）
8. 2022/05 小学校国語における百人一首学習の在り方について—和歌鑑賞とかるたを取り入れる単元開発—（和歌文学会月例会）
9. 2022/09 「文字文化の豊かさ」に触れる学習指導論—歴史資料を活用した中学校書写指導—（全国大学書写書道教育学会）
10. 2024/01 国語教育における百人一首の現状と展望（全日本かるた協会百人一首講演会）

教育

■ 主要学科目

高等学校国語科教育法 中学校国語科教育法 中学校・高等学校教育実習 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 教職実践演習

その他

■ 社会活動

神奈川県かるた協会会長 (一社)全日本かるた協会認定6段・A級公認読手

■ 受験生のみなさんへ

皆さんは日常生活において「言葉」を使っています。片思いをしながら切ない思いをしたり、夢に向かって精一杯努力していたりする時に、きっと頭の中には「言葉」が去来していることでしょう。その「言葉」はほとんどの場合、この国で千年以上前から、変化しながらも受け継がれてきたものです。ぜひ、この「言葉」を大事に、そして素敵に使える人になるとともに、それを次の世代の子どもたちに伝えられる人に本学でなっていて欲しいと思います。

■ こんな研究しています

私の研究の柱は2本あります。1つは国語科の授業作りについてです。これからの社会に役立つ国語力とは何か、そしてそれを授業で身につけさせるためにはどのような学習活動をすればよいか等について調査・分析・開発をしています。もう1つは、文学作品、特に夏目漱石『こころ』と新古今和歌集という、国語科教材として有名な2作品について、「教材」という視点から解釈等を捉え直す研究です。これまで文学研究という世界の中で捉えられていた両作品を、「教室」という場で読む時のポイント等について研究をしています。

岸本智典（准教授）

○専門分野 教育学／アメリカ教育思想史

○担当科目

教育原理 教師論 教育課程論 教育の方法及び技術（ICT活用を含む）
生徒指導とキャリア形成 道德教育 コミュニケーション論

○略歴

作新学院大学女子短期大学部専任講師（2015～2018）

昭和音楽大学音楽学部専任講師（2018～2023）

鶴見大学文学部准教授（2023～現在）

ほか、千葉大学、慶應義塾大学、日本大学、東洋大学にて非常勤講師。

○学位

慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻博士後期課程単位取得退学
修士（教育学）

○著書・論文

編著書

- ・『道德教育の地図を描く——理論・制度・歴史から方法・実践まで』（編著、教育評論社、2022年）
- ・『ウィリアム・ジェームズのことば』（編著、教育評論社、2018年）

共著書

- ・『教育と政治を編み直す——規範的教育学の再構築』（高宮正貴・市川秀之・杉田浩崇編著、勁草書房、2026年）
- ・『教育と出会いなおすための教育思想』（間篠剛留編著、教育開発研究所、2025年）
- ・『世紀転換期の英米哲学における観念論と実在論——現代哲学のバックグラウンドの探究』（染谷昌義・小山虎・齋藤暢人編著、特定非営利活動法人 ratic、2024年）
- ・『教育哲学事典』（教育哲学会編、丸善出版、2023年）
- ・『デューイの思想形成と経験の成長過程』（行安茂編著、北樹出版、2022年）
- ・『西洋教育思想史 [第2版]』（眞壁宏幹編著、慶應義塾大学出版会、2020年）

共訳書

- ・『デューイ著作集 2 哲学 2 論理学理論の研究, ほか: デモクラシー/プラグマティズム論文集』（古屋恵太訳者代表、東京大学出版会、2023年）
- ・『アメリカ哲学史——一七二〇年から二〇〇〇年まで』（共訳、B. ククリック著、勁草書房、2020年）

○社会における活動

- ・日本デューイ学会 常任理事（2025～現在）、編集委員（2024～現在）
- ・独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 専門委員（2019～2022）
- ・アメリカ教育史研究会 事務局幹事（2019～2021）

○教職課程を目指す方へ

私の大好きな言葉に、教育学者の松岡信義さんが書かれた「キャンパスは差異と共感が高密度で循環する空間」という言葉があります。この鶴見大学に来る前に別のいくつかの大学で教えてきましたが、毎年、卒業する学生さんたちにこの言葉を送り続けてきました。教室では対峙する関係にある私たちは、〈教え—教えられる〉関係性のなかで、お互いの「差異」を感じる場面のほうが多いかもしれません。偉そうに語る私に対して反感を抱く方もいらっしゃることでしょう。この言葉はそうした反感すらも大学の「キャンパス」ではおおいに結構なことだと言うような、寛容な響きも持ちます。

ただ、時に「共感」が生まれる場面もひょっとしたら訪れるかもしれません。最初は楽しそうな顔をしていなかった学問というものも、そうした共感のなかで皆さんに少しずつ語りかけてくることもあるでしょう。もし、教育学という幅と奥行きのある学問を通じて、皆さんが強い「共感」を覚えられたとしたら…。

その時はぜひ教師となって、皆さん自身の力でこれからの世界を変えていただければと思います。

以上